

令和5年度 常総学院中学校自己評価表

★5段階評価 A:目標が十分達成された B:ある程度の成果が見られた C:取り組んだ D:取り組んだが課題を残した E:取り組まなかった

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題・改善方策
目指す学校像	『知育・徳育・体育の円満なる人物の育成』との建学の精神に則り、「自主・誠実・創造」を校訓として掲げ、「文武両道」を基本方針とし、将来は日本及び国際社会に貢献できる人物を育て、真の意味でのエリートを輩出することを目標とする。			
国語	基礎学力の定着と応用力の向上。自学自習力の育成を図る。	各学年に応じた教材の選択や精選とわかりやすい授業展開を心がける。 基礎学力定着のために、漢字テストや課題プリント等の工夫をする。 応用・発展力を育成するための適当な教材や課題を精選する。	A A A	A ICTを活用した学習指導の充実を図る。生徒からの振り返りの回収を定期的に行い、指導に活かしていく。教科横断等を充実させる。
社会	基礎的な知識を身につけさせ日本人として国際社会で通じる人材の育成を図る。	中1は地理分野を学び、基礎知識の習得や系統学習に取り組ませる。 中2は歴史分野を学び、特に京都・広島で現地調査を行い、研究発表を行う。 中3は歴史分野の後半と公民分野を学び、NZ研修を通し、国際社会への貢献の仕方について考える。	A A A	A 思考・判断の力を育てるために、授業内での問題演習の充実。そのためのALの促進。学校行事との連携を行う。
数学	綿密な授業計画をもとに基礎学力の定着と応用力の向上を目指す。	中1は予習→授業→復習の習慣化と課題提出期限の厳守を徹底する。 中2は中1同様学習習慣の確立と発展応用力の向上を図る。 中3は高1の先取学習を行うと同時に全国模試対策の演習授業を充実させる。	A A A	A 基礎学力を定着させつつ、応用力も養成する。
理科	自然や科学に対する関心や探究心を高め、論理的に考える力を育成する。	中1は、観察、実験技能の習得と興味関心を育てる。 中2は、科学的な見方や考え方を養う。 中3は、より深い知識の習得と学習方法を身につける。	A A A	A 安全対策に配慮した実験・実習の実施 画像、映像教材を利用した学び 双方向アプリケーションを利用したALの実施
保健体育	体力を鍛え、集団での自己の役割を認識させ、自発的に行動させる。保健の基礎知識を習得させる。体育の授業において、怪我等の事故防止に努める。	体育の個人技量の向上と集団行動において他人を思いやる心を育成する。 保健の授業では視聴覚教材を積極的に取り入れ、興味関心を喚起する。 ケガ、事故防止のために準備運動や安全管理に努め、常に気を配る。	A A A	A 体育分野での個人的技能の向上と保健分野の視聴覚教材のさらなる活用。パワーポイントやデジタル教科書の導入などICTの活用。
芸術	創造力と芸術の楽しさ、こころ豊かに生きることの大切さを伝える。	音楽や美術を通して、感動や作り上げる達成感や豊かな感性を育成する。 中1～中3の3年間を通して授業や文化祭で様々な何かを作り上げる経験させることで創造力を培い、他者の心をも豊かにする表現力を身につけさせ、感性、感受性などを豊かに育てる。 中1は美術館見学などを通して美術鑑賞を積極的に行い、読み解き力や観察力などを養う。 自国の文化を国内研修で学び、中3はニュージーランド海外研修を通じ、外国の風景や文化を実体験させる。	A A A B	A 芸術分野に興味関心を持たせる。芸術に理解のあるグローバルな人材育成。
英語	基本英単語の定着と会話力、基礎学力の向上を図る。	ネイティブの授業(1クラス3分割少人数制)で英会話力とプレゼン力を鍛える。 本校指定の基本英単語全てを全員が習得するまで根気よく追試験を行う。 教科書・補助教材の活用と反復練習で基礎学力定着と応用力を身につけさせる。	A A A	A 中学課程の基本内容を定着させ、英語を使って積極的にコミュニケーションをすることができる生徒の人数を増やしていく。
技術家庭	学習を日常生活に生かし、自立に必要な生活技術の向上を図る。実習中の衛生面・やけどなどの事故防止に努める。	自立に必要な調理と被服、基礎基本を身に付けさせる。 実験・実習の充実を図り、技術の向上を図る。事故防止のため安全管理に努め常に気を配る。 双方向性のあるコンテンツのプログラミング・計測制御のプログラミングを通し、問題解決能力を養う。	A A A	A ライフズテック教材を使用し、HTML・CSS・JavaScriptそしてPythonに触れ高校での情報につなげる。
総務課	学校行事調整と諸調査、学校要覧、公文書管理等。	年間行事計画立案と円滑な実施が可能となるように毎月各分掌と連絡調整を図る。 茨城県私学振興室関連の諸調査及び回答文書作成を正確かつ迅速に行う。 学校要覧作成のとりまとめ業務全般を行う。	A A A	A 年間行事予定等を参照し、3カ月先を意識して行動する。
	表簿類の手配や印刷室の管理、事務用品の管理等を行う。	出席簿、学級日誌、教務手帳、指導要録等の発注手配を教務と連携して行う。 印刷室環境美化に努め、印刷用紙の在庫管理や発注を行う。 筆記用具やファイル、その他事務用品全般の管理及び発注を行う。	A A A	A 事務処理や文書処理で正確な作業を行う。 変更が多いので、変更に臨機応変に対応し、連携して、周知する。
	入学式、卒業式等の式典や父母の会総会等の総括を行う。	入学式、進級式等の式典関係の運営をとりまとめる。 父母の会総会の役員及び来賓者への連絡や対応を渉外課と協力してとりまとめる。 全体行事全般について各分掌間との連携を図り円滑に運営できるよう努める。	A A A	A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題・改善方策
渉外課	父母の会総会や父母の会各支部活動の活性化。	父母の会総会や学級懇談会への保護者の参画を呼びかける。	A	円滑な運営方法の検討。
		父母の会各支部総会の参画増加のための資料作成や講演内容の検討に努める。	A	
	父母の会役員会や後援会会議等の補助。	父母の会正副会長会議や後援会等の事前準備及び会議運営の補助に努める。	A	
		父母の会関連諸会議への協力に努める。	A	
		父母の会及び教職員の懇親会などの準備や手配に協力する。	A	
父母の会広報活動。	父母の会新聞や父母の会各支部だよりの取材や編集、発行業務を支援する。	A		
		A		
施設環境課	教育施設全般の管理にあたる。	机、椅子、教卓、教壇、黒板、掲示板などの教室備品の管理と整理を行う。	A	学校備品のきちんとした管理、清掃作業の徹底を通して、学校環境の美化・向上に努める。各教室の机、椅子の交換を速やかに進めていく。
		校内外の清掃活動の徹底と学校環境の整備・美化に努める。	A	
		清掃用具の管理や不足分の調達、その他必要な物品等の購入を検討する。	A	
	省エネ、防災活動の徹底。	年間2回の避難訓練の計画を立案し、実行する。	A	
		各種警報装置や防火管理設備の点検を定期的に行い万一来臨に備える。	A	
		照明器具の省エネに努めると同時にエアコンや加湿器フィルターの清掃を定期的に行う。	A	
	清掃状況確認及び学校見学会、入試関係の諸準備手配。	各教室やトイレ、特別教室などの常日頃から整理整頓を徹底させる。	A	
		各教室の机や椅子、その他不具合のある備品の交換や修理を計画的に行う。	A	
		学校見学会、本校入試会場準備の際の清掃の指示及び最終確認作業。	A	
生徒指導課	規律ある落ち着いた学校の雰囲気作り。	学校生活の上で不要な物品の持ち込み禁止。携帯電話持ち込み許可制、校内使用禁止の徹底を図る。	A	学校内での生活指導強化の他、学校外での服装・マナーなど、生徒の意識向上を図る。自ら率先して挨拶や声掛けができるように声掛けを実施する。校外、校内での危険回避能力を身に付け、行動できるようにする。
		授業開始のベルが鳴る前に着席する「ベル着」や授業中私語禁止の指導徹底を図る。	A	
		全員皆勤を目標に毎日学校に登校し、勉強に取り組む姿勢を指導徹底する。	A	
	父母の会との連携を図り、問題解決にあたる。	父母の会と連携し、各支部単位で祭補導や列車指導、バス指導などを展開する。	A	
		制服検討委員会、給食検討委員会、学年検討委員会等で学校との連携を図る。	B	
		父母の会各支部総会での生徒指導関連の情報交換会や相談会の実施。	B	
	心の教育の充実。	「あいさつ運動」の展開。	A	
		社会のルールを守ることや他人への思いやりの大切さを徹底指導する。	A	
		消火活動や事故防止活動、その他いわゆる『善行』に対する意識の高揚を促す。	A	
特別活動課	生徒会活動の活性化を図る。	生徒会が企画運営する学校行事に関する支援や工夫をアドバイスする。	A	新型コロナウイルス対策が緩和されたことで本来の規模での活動ができるようになるので、この数年で培ったICT技術を活用し、生徒会役員を中心にさらに精力的に活動できるようにする。また、個人情報保護法の観点からも注意をして活動をしていくように指導徹底を行いたい。
		生徒会予算編成・執行に関する業務を正確・迅速に行えるよう支援する。	A	
		生徒会誌「常総」の編集を支援することで伝統とプライドを持たせる。	A	
	プロジェクト活動の活性化を図る。	各プロジェクト活動の予算を調整し、円滑な活動ができるように予算を配分する。	A	
		野球応援等に積極的に参加するように呼びかけることで母校愛を高める。	B	
	新入生歓迎会、常友祭、芸術鑑賞会等の諸行事を統括する。	新入生歓迎会で生徒会やプロジェクト活動を紹介し、本校への帰属意識を高める。	A	
		常友祭準備から後片付けまで一連の運営を支援し創意工夫の力を育てる。 吹奏楽部や外部団体による芸術鑑賞会の企画立案を計画的に取り組む。	A B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題・改善方策
保健相談課	保健衛生管理に努める。	常に洗面所にシャボン液、石鹼の有無を確認し、衛生管理に努める。	A	B	生徒及び教職員の健康状態の把握を行い、感染状況に応じた対応をしていく。また、個々に合わせた対応をしていく。保健だよりや掲示、保健係の放送等で、時期にあった情報を伝えられるようにしていく。
		常時換気や手洗い、うがい、アルコール消毒等を励行し、感染症予防に注意させる。	A		
		施設環境課と連携し、教室や廊下の清掃を徹底し清潔な環境を保持する。	B		
	生徒の健康管理。	定期検診やその他歩く会などで問診を行い、健康に留意させる。	A	A	
		生徒及び保護者に「保健だより」を定期的に発行し、時期にあった情報をつたえる。	A		
		さまざまな病気や注意すべき事柄を保健室前に掲示し、注意を促す努力をする。	A		
	教育相談の実施。	体の病気や精神的な悩みについて相談する機会を設ける。	A	A	
		悩みのある生徒は担任・学年・管理職等と連携し、的確な対処を相談する。	A		
		専門医へ相談することを促したり、適切なアドバイスを行うように努める。	A		
教務課	授業時間の確保に努める。	年休出張等は事前に変更し、突発休は当日授業補填を100%確実に行う。	A	A	適切な学習指導の実施に向けて、教育課程・授業内容(シラバス)検討、見直しを進めていく。また、学習の進捗や指導方法について随時確認をする。
		毎年、学校行事の見直しを図り、出来る限り授業時間の確保に努める。	A		
		生徒及び教員にとって、能率的で公平な時間割編成を行うよう努力する。	A		
	適切な教育課程の編成とシラバスの完成に努める。	新しい学力観の涵養を目指した中高6カ年の教育課程を編成する。	A	A	
		中高6カ年(中高一貫コース)のシラバスを編成する。	A		
		生徒の学力に応じた教材とその進捗及び深度計画を毎年見直すことに努める。	A		
	教科による研修の充実を図り、授業力の向上に努める。	教科会議を中心に各教科内で授業内容の綿密な打合せを実施する。	A	B	
フレッシュマン研修制度を利用し、授業方法の改善をこころがける機会を与える。		B			
学習指導課 ・ ICT教育課	教員の研修体制の確立(校内ICTの活用とAL型授業の普及など)	教員に対して、外部の研修への参加案内を行ったり、報告内容を共有したりするなど研修体制を整える。	A	B	模擬試験の成績を通じ過年度比較を行い、教科毎に何を取り組んでいけばよいのかを提言できるようなシステムを構築していく。校内ICTの活用とAL型授業の普及に努め、よりよい学習体制を構築する。
		教員研修会を定期的実施し、教員が研修できる環境を提供する。	B		
	放課後や夏期休業期間中の特講授業や補習授業の計画・立案。	年間を通して特講の実施状況や回数、内容等の記録を統括する。	A	B	
		夏期休業期間中の前期、後期の特講授業や補習授業の各学年間の調整を行う。	A		
		夏休み中の各学年行事や野球応援などに臨機応変に対応できる体制を整える。	B		
新入生のための指導計画を立案。	新入生のための事前指導計画や教材内容の選定など調整を行う。	A	A		
図書館課	読書、鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。	新刊書の中から、生徒に是非読ませたい本を教員が選択し、購入に努める。	A	A	図書室を利用して本を読むという生徒が少ないですが最近では本を借りに来ている生徒がいます。英語の小説を読む生徒もいます。図書係を通じて、読書推進に努める。
		生徒から購入希望本のリクエストを募集し、可能な限り購入に努める。	A		
		文系・理系のジャンルで生徒が選択しやすいように本の配置を工夫する。	A		
	朝及び昼の図書館を利用した本の貸し出しを目指す。	朝8:10分より8:25分まで及び昼13:15より13:30までの本の貸し出しとする。	A	B	
		図書館内の読書では私語を一切禁じ、黙々と集中する態度を育成する。	B		
学習上、図書館の本を多く貸し出しすることに努める。	B	B			
進路指導課 ・ キャリアデザイン課	高い志を持つ一人一人に対応した進路指導の充実を図る。	将来について考えさせる進路講演会や学年行事等への積極的参加を支援する。	A	B	進路指導主体の全体での進路指導を充実させ、学年ごとに必要な指導をシステムとして機能させる。探究学習と進路指導が相乗効果を生むような方策を考えて実践してきたので、システム化を進めていく。
		将来を真剣に考えるための資料や図書類を充実させ自由に閲覧できるようにする。	B		
		探究学習を行い、生徒間で共通理解を図る。	A		
	授業を中心に主体的な学習習慣を確立させ、学力向上を図る。	授業が大切であることを認識させるために、的確な進路情報を発信する。	B	A	
		学年と連携し、生徒の家庭学習実態を把握し、担任の個別指導に役立てる。	A		
		学年と全国模試の年間実施時期及び回数等を調整し、学力向上を支援する。	A		
	進路情報の生徒・保護者への提供に努める。	生徒が志望校を考える資料として『大学合格体験記』を三者面談時に配布する。	B	B	
父母の会総会、学年別進路講演会、父母の会支部活動等において情報を提供する。		B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題・改善方策	
情報処理課 ・ 情報システム課	個人情報保護法遵守と校内の情報処理の推進役を果たす。	校内LAN、インターネット環境の保守管理に努める。	A	電子黒板や生徒用PCの修理やメンテナンスの手順を改訂し、よりスムーズな管理運営を行う。Teams、クラウドを用いた教員間の情報共有が活発化していることから、校内セキュリティポリシーの徹底、講習会の実施を継続し、教員の情報リテラシーの向上を図っていく。	
		学校関連のデータや個人情報の機密保持に細心の注意を払う。	A		
		個人情報保護の法的知識やデータの扱い方等について周知徹底を図る。	A		
	教職員の意見に耳を傾け、使いやすいOA環境を構築する。	定期試験成績処理システムの運用を円滑に行う。	A		A
		生徒検索システム、電子カルテ、インターネット利用記録等のシステムの運用を図る。	A		
		模試の過去問をLAN上に公開し大学入試対策の利用に役立てる。	A		
入試業務及び在校生の個人情報管理。	入学試験受験者名簿の作成や事務手続きに必要な個人情報を取りまとめる。	A	B		
	新入生及び在校生の住所や連絡先などの個人情報を一括して管理する。	A			
	進路指導課や同窓会と連携し大学進学先や現住所の把握に努める。	B			
入試広報課	学校教育活動のアピールと入試制度の周知徹底	英語教育(CE)について、取り組みや生徒たちの様子を積極的に紹介する。	A	訪問塾やエリアの見直しを行い、単願者の獲得はもちろん、第1志望校の入試に近い形式を選択してもらえるよう、学習塾との連携をさらに強化していく。また、D-Labの設置により充実したICT環境や本校英語教育を理解してもらうため、特化したイベント企画も利用し、本校に足を運んでもらえるようにする。さらに、進学先の選択肢にあげてもらえるよう、塾での説明会開催を依頼する。	
		探究フィールドごとの活動について、取り組みや生徒たちの様子を積極的に紹介する。	A		
		ICTを活用した教育活動について、取り組みと学習環境の充実を紹介する。	B		
		ホームページの充実を図り、学校生活の様子や入試情報をスピーディーに更新する。	A		
		模試成績や検定試験の結果・入学時の成績と合格大学を明示し、成績の伸びと他校との差を紹介する。	A		
		入試ごとの特徴を紹介し、単願者とともに併願者の獲得にも努める。	B		
中学1年	「切磋琢磨」を学年目標に、身の回りの事象を仲間と競い合いながら取り組んでいく。	学習習慣と生活習慣・三点固定を確立すべく、手帳にてスケジュール管理をする。	B	自律に向けては課題が残るが、基本的な生活習慣は身につけている。保護者との連携を密にすることで、早期に課題点を見出し対処することができている。学習姿勢は全体的に良好。主体的な学びへの具体的方法と雰囲気づくりへの工夫が来年度の引き継ぎ事項である。	
		学年集会を定期的に開催し、学年生徒全体の共通理解を図る。	A		
		職員間で生徒の様子を細かく共通理解し、個に応じた指導を心がける。	A		
		学校と家庭の連携を重視するため、連絡を密にして共通理解を図る。	A		
		基礎的基本的な知識の定着を目指し、授業中心の学習を確立すべく、学年教師で評価を共有する。	B		
		基礎学力向上の基礎としてClassiを用いての学習時間の入力や振り返り作文の実施を行う。	A		
中学2年	「Positive Words, Only」をスローガンに、ものごとを前向きに捉え、自分の成長に繋げる思考を身に付ける。また、身の回りの事象を「当事者意識を持って」とらえる。	学習習慣と生活習慣・三点固定を確立すべく、手帳にてスケジュール管理をする。	B	自律に向けては課題が残るが、基本的な生活習慣は身につけている。保護者との連携を密にすることで、早期に課題点を見出し対処することができている。学習姿勢は全体的に良好。主体的な学びへの具体的方法と雰囲気づくりへの工夫が来年度の引き継ぎ事項である。	
		学年集会を定期的に開催し、学年生徒職員全体の共通理解を図る。	A		
		習熟度に合わせた学習の仕方や学習の内容を考えさせ、自らの課題を見つけ解決していこうとする姿勢を培う。	A		
		学校と家庭の連携を重視するため、連絡を密にして共通理解を図る。	A		
		基礎的基本的な知識の定着を目指し、授業中心の学習を確立すべく、学年教師で評価を共有する。	B		
		基礎学力向上の基礎としてメモ力を養うべく、手帳記入や振り返り作文の実施を行う。	A		
中学3年	「積極的変革」をスローガンに、自分の習慣や考え方を積極に見直し、より良い成果に向け挑戦する姿勢を育てる。	基本的な生活習慣を確立させる。	B	学習習慣の確立に向け、生活習慣の見直しの機会を積極的に設けたが、課題点を自ら見出す力をつける点が次年度への課題。行事や試験ごとに評価ポイントを明確にしながら個に合わせた的確な振り返りをさせたい。学習効果を自ら分析できるよう、個票の効果的な利用に力点を置く。	
		自治的な活動を通して、自分たちの手で運営する力を養う。	A		
		英検、漢検、数検等の資格取得を推進するなどして、基礎学力の徹底を図る。	B		
		習熟度に合わせた学習の仕方や学習の内容を考えさせ、自らの課題を見つけ解決していこうとする姿勢を培う。	A		
		職業について学習する機会を設け、自分の将来について具体的に考えさせる。	A		
		個別に面談を随時行うことによって、生徒一人一人の自立を促す。	A		

## 令和5年度 常総学院中学校学校関係者評価表

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度の重点目標の達成状況について	A 十分達成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習面では、ICT機器の利用やAL型授業の促進を行っていること、小テストを頻繁に行い、個に応じた学習を展開していることが評価できる。これからもより一層きめ細やかな指導をお願いしたい。</li> <li>・挨拶、服装がしっかりしており、生徒指導が行き届いている様子がよくわかる。教育目標であるエリート・リーダーの育成に向けて、社会的なマナーや国際社会における日本の役割等も生徒に考えさせてほしい。</li> </ul>
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
2. 学校の自己評価表の具体的目標 及び 具体的方策の達成状況について	A 十分達成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科について、どの教科も学習習慣の確立・基礎学力の定着を目標に努力していることがわかる。英語では少人数制でネイティブの授業を行うなど、4技能習得に向けたカリキュラムが充実している。また、プログラミング教育にも力を入れている点も評価できる。</li> <li>・校務分掌では、各分掌が細かく具体的な目標を掲げて、校務を遂行している様子がうかがえる。今後とも継続して行ってほしい。</li> </ul>
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
3. 次年度への主な課題の把握について	A 十分把握している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科・校務分掌において、丁寧に現状分析が行われている。コロナ禍で培ったICT機器の活用法をコロナ前の学習と照らし精査し活用したり、効果的なAL型授業の展開などを行い、目標達成に向けて一層の努力を期待している。</li> </ul>
	B どちらかといえば把握している	
	C どちらかといえば把握していない	
	D 把握していない	
4. 改善方策の策定状況について	A 策定できている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の把握ができており、明確に改善策を講じていることがわかる。定期試験、模擬試験の後に、会議を行い、改善方法を模索している。今後とも、各項目においてエビデンスを集約し、より具体性を持った改善策を講じてほしい。</li> </ul>
	B どちらかといえば策定できている	
	C どちらかといえば策定できていない	
	D 策定できていない	

※「学校関係者評価」は、学校の自己評価結果をふまえて行うこととします。学校関係者評価における評価者とは、各学校の生徒の保護者や、各学校の教職員を除いた学校と直接の関係のある者及び大学教員等の学校と直接の関係を有しない有識者とし、学校評議員も評価者に含まれます。

### 令和5年度 常総学院中学校学校第三者評価表

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度の重点目標の達成状況について	<input checked="" type="radio"/> A 十分達成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用だけでなく、面談を通して、きめ細かな指導が行われており、社会のリーダー育成に努めていることが伺われる。</li> <li>・生徒指導の点においては、挨拶・服装がしっかりしており、指導の徹底が見受けられる。社会的マナーのさらなる向上に期待している。</li> </ul>
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
2. 学校の自己評価表の具体的目標 及び 具体的方策の達成状況について	<input checked="" type="radio"/> A 十分達成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科において、小テストや学力定着試験などで基礎学力の定着を図るなど具体的目標を掲げて学力向上に取り組んでいる。</li> <li>・校務分掌においては、円滑な学校運営が行われており、学校の活性化に向けての努力が伺われる。</li> </ul>
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
3. 次年度への主な課題の把握について	A 十分把握している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科・校務分掌において、しっかりと現状分析をし、次年度に向けての明確な課題を見つけられている。</li> </ul>
	<input checked="" type="radio"/> B どちらかといえば把握している	
	C どちらかといえば把握していない	
	D 把握していない	
4. 改善方策の策定状況について	<input checked="" type="radio"/> A 策定できている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状を把握しながら改善策を講じていることがわかる。新年度においては方策を確実に実行し、改善に努めてもらいたい。</li> </ul>
	B どちらかといえば策定できている	
	C どちらかといえば策定できていない	
	D 策定できていない	